

「道徳」の研究

青木利恵子



キーワード

共感的理解 発見的理解 心の揺れ

主張

「道徳」では、「『共感的理解』と『発見的理解』から自分も他も共に大切にしようとする価値観を創りあげる子ども」を目指した。それは、仲間の考え方や価値観の相違に気づき尊重しながら、自分の思いや願いを具現しようとする子どもである。

「共感的理解」では動作化や役割演技等を取り入れて登場人物の立場や状況に共感し、どうしたらよいか問題解決策を考える。「発見的理解」では、他の気持ちや考え方に触れることで、そこに含まれる価値を別の側面から見たり自分が潜在的にもっている価値観に気づいたりして問題解決策を考える。

「共感的理解」と「発見的理解」の間で心が揺れ、どうすることがよいのか考えることで、自分も他も共に大切に、よりよく生活しようとしていく子どもの姿を明らかにした。

I 「共感的理解」と「発見的理解」から自分も他も共に大切にしようとする価値観を創りあげる「道徳」

1. 「道徳」で求める子ども

求める子ども

「共感的理解」と「発見的理解」から自分も他も共に大切にしようとする価値観を創りあげる子ども

「意欲・態度」

「共感的理解」と「発見的理解」の間で揺れ動き、よりよい判断や行動をしようとする力

「中核となる学力」

共感的に問題状況をとらえ、道徳的価値を自覚し問題解決策を考える力

「道徳」では、「『共感的理解』と『発見的理解』から自分も他も共に大切にしようとする価値観を創りあげる子ども」を目指す。これは、仲間の考え方や価値観の相違に気づき尊重しようとしながら、自分の思いや願いを具現しようとする子どもである。

「共感的理解」とは「人物の立場や状況を自分のことのように考え理解すること」である。「発見的理解」とは、「他の気持ちや考え方やまたは自分が潜在的にもっている価値観に気づき理解すること」である。

これまでの「道徳」の授業を振り返ると、建前的な考え方や問題解決策を考えることが多く、子どもの経験や本音から離れがちになる面があった。そこで、第2次研究ではより自分の問題として考えていけるように、「共感的理解」と「発見的理解」に着目した「道徳」を展開していく。

「共感的理解」では、問題状況を自分のことのように考えていく。自分の問題解決策を考え、安定している状況で、「発見的理解」の資料を提示する。話し合いを通して他の気持ちや考え方に触れることで、「発見的理解」の資料に含まれている価値を別の側面から見たり、自分が潜在的にもっている価値観に気づいたりしていく。自分の経験を想起することで本音に迫りながら「共感的理解」と「発見的理解」の間で揺れ動き、建前的ではない解決策を考えていく。「共感的理解」の価値に「発見的理解」の価値が付加され、価値観を更新して、問題解決策を再構成していく。

「共感的理解」と「発見的理解」の間で心が揺れ動き、もう一度自分の考えをまとめることで本音に迫りながら「自分も他も大切にしようとする価値観」が創りあげられると考えた。

2. カリキュラム改善の視点

「自分自身に関すること」「他の人とのかわりに関すること」から学級の実態に合わせ内容を精選し重点主題とすることで、自分自身と他の両面から自分を深く見つめ直していく。その際の問題解決策を考える視点や求める意欲の高まりを段階的に下のように描いた。

	低学年	中学年	高学年
問題解決策を考える視点	問題場面について自分の経験を想起しながら考え、解決策を考える。	問題場面について自主性や協力の視点を大事にしたり自分の経験を想起したりして、解決策を考える。	問題場面について相手の立場を考えたり自分の経験を想起したりして、解決策を考える。
求める意欲の高まり	自分もがんばりたいと意欲を高める。	他の場面でも生かしていきたいと意欲を高める。	他の場面でも生かしていけるように自分の主体的な行動の仕方を考え意欲を高める。

3. 授業改善の方策

	〈学 習 過 程〉	〈教師の働きかけ〉
知識・技能等の習得	<p>資料1を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> Aさんの問題はということかな。 <p>資料中の人物の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> Aさんの気持ちや問題状況がわかってきた。 ◎Aさんの問題を解決するにはどうしたらいいだろう。 <p>問題解決策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> Aさんの問題解決策がわかったぞ。 	<p>○問題場面の提示</p> <p>○役割演技や動作化をして気持ちを話し合う活動の組織</p> <p>○問題解決策を話し合う活動の組織</p> <p>「共感的理解」</p>
	<p>資料2を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> あれ、ぼくの考えと少し違う。 <p>資料中の人物の気持ちや行動を考える。</p> <p>◎どうしてだろう。Aさんはどうしたらいいのだろう。</p> <p>資料中の人物の気持ちや行動の理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> なるほどね。そういう考えもあるね。 <p>自分の経験を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の場合はどうかかな……。 価値観の更新 <p>もう一度どうしたらよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> Aさんは、どうすることがいいのかな？ 問題解決策の再構成 	<p>○人物の気持ちや行動の意味など疑問に思ったことを話し合う活動の組織</p> <p>○自分の生活とのかかわりから問題場面を考える場の設定</p> <p>「発見的理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の経験を想起するカードの提示
知識・技能等を活用するよさの実感	<p>学習を振り返り、考えたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の場合は○○だった。Aさんは○○○でやってみたらどうだろう。 Aさんのように自分もがんばりたいな。 	<p>○学習を振り返り、考えたことをまとめる場の設定</p>

4. 評価方法

最初と終末の問題解決策のワークシートの記述の比較により、考えの変化を見取る。

最初に考えた解決策と後から考えた解決策や自分の考えが記述されたワークシートを比較することにより、考えの変化を見取り価値観の更新の様相を分析していく。

II 実践の概要

第1学年

「自分のことは自分で」 内容項目1 (2)自立

1. 「共感的理解」と「発見的理解」を通して、自分の経験に引きつけて自分の価値観を深めていく学び

1年生は身の回りの事が一人でできないことがあります。できないことは「やってください。」と人に頼ることが多い。できなくても自分でやろうと努力する態度をもつことがこれからの自立した生活態度につながっていくと考え、本主題を設定した。

本主題では、ランドセルカバーをかけたけれど一人ではなかなかできないゆうたさんの場面を資料1として取り上げる。実際にやってみることで、ゆうたさんの困っている気持ちがわかり、ゆうたさんの立場や状況への「共感的理解」をし、問題解決策を考える。

他の気持ちや考え方に気づいていけるように「発見的理解」の資料として、ゆうたさんの友だちが助けてあげようとしているのにゆうたさんは泣いてしまうという場面を資料2として取り上げる。泣いている理由を考えたり、話し合ったりすることでゆうたさんの本当にやりたいことに気づく。そして、自分が練習してできるようになった水泳・自転車・ピアノのカードを提示して自分の経験を想起する。自分の本音に迫りながら、ゆうたさんはどうしたいのか考えを深めることで自分のことは自分でしたいという思いが自分にもあることを「発見的理解」していく。「助け合い」から「助け合うことも大事だが時には自立も大事」と価値観を更新していく。

最初の「共感的理解」の問題解決策から、「発見的理解」を通し自分の本音に迫り直していくことで問題解決策を再構成して、自分も他も共に大事にしようとする価値観を創りあげていくことを願った。

2. 主題の構想

(1) 主題の目標

自分のことを自分ですることが難しい子どもの気持ちについて明らかにする中で、大変だけれども自分のことは自分でしていかななくては自分のためにならないということに気づき、何もかも人に頼るのではなく、自分でできることを少しずつ努力して増やそうと意欲を高めることができる。

(2) 追求の構想（2時間）

資料1

ゆうたさんは苦手なことがあります。一人でランドセルカバーをつけることがなかなかできません。友だちは廊下で「早く。」と言って待っています。

ランドセルカバーをつけるのって難しいの？

ランドセルカバーをつけるのなんて簡単だよ。

ランドセルカバーを実際につけてみて、ゆうたさんの気持ちを考えよう。

思ったより難しいぞ。ぼくってだめだなあ。

あれ、できない。難しいんだな。

◎ゆうたさんは、どうしたらいいだろう。

友だちに手伝ってもらおう。

先生や友だちに頼もう。

資料2

ゆうたさんが困っていると友だちが「やってあげる。」と言いました。ゆうたさんは「やめて。」と言って泣いてしまいました。

なんで泣くの？

手伝ってもらったのにどうして泣くの？

◎ゆうたさんは、どうしたいんだろう。

わかった。自分でやりたいんだね。

手伝ってもらってばかりはだめなんだね。

ゆうたさんのことで思ったことを振り返ろう。

できることは自分でやれるようになるといいね。

手伝ってもらうのもいいけれど、自分で練習もしなくてはだめだね。

3. 授業の実際

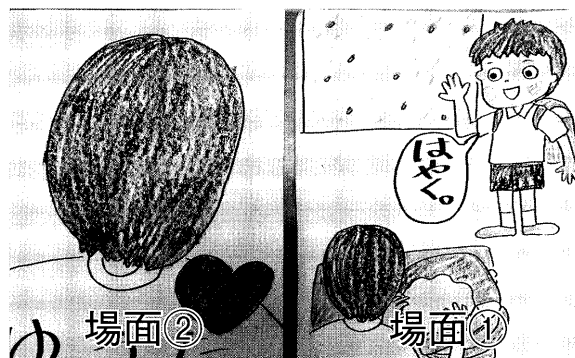
(1) 自分で上手くランドセルカバーをかけられないよ どうしよう……

自分の考えをもち、気持ちを素直に行動に表すよさをもつ将人さん。しかし、自分のことは自分でするという意識にやや弱さがみられた。

そこで、本主題を通して自分のことは自分でという意識をもち、自分のために最後までがんばろうと意欲を高める姿を期待した。

「誰にでもよくできないなあということはあるよね。」と教師が尋ねると自分が苦手としていることを思い出しながら話す子どもたち。下の場면을提示しながら資料1「ランドセルカバーをつけられないゆうたさん」の話をした。

資料1
ゆうたさんは苦
しいことがあります。
一人でランドセル
カバーをつけることが
なかなかできません。
友だちは廊下で
「早く。」
と言って待っています。



話を聞き終わると、帰り支度の時のことを思い出して「ぼくも遅くなる。」とつぶやく子どもたち。

早くランドセルカバーをつけられるかどうか確かめる活動を行うと、将人さんは、ベルトが邪魔で上手くかけることができなかった。「やってみて、どうだった？」と教師が尋ねると「難しい。」と答える将人さん。他の子どもたちも「難しかった。」と口々に言ってきた。ランドセルカバーをかけられないゆうたさんの状況を理解し始めた判断し、ワークシートにゆうたさんは今どんな気持ちなのか書くことにした。

将人さんは、ゆうたさんの気持ちを右のように記述した。その後の話し合いでは、将人さんをはじめ学級の半分以上の子どもが「手伝ってもらえばいいんだよ。」と発言した。「自分でがんばる。」との発言もあったが、他の考えと比較して自分の考えが深められない子どもたちの状況と判断し、資料2を提示していくことにした。



実際にランドセルカバーをつける将人さん

〈ゆうたさんの気持ち〉

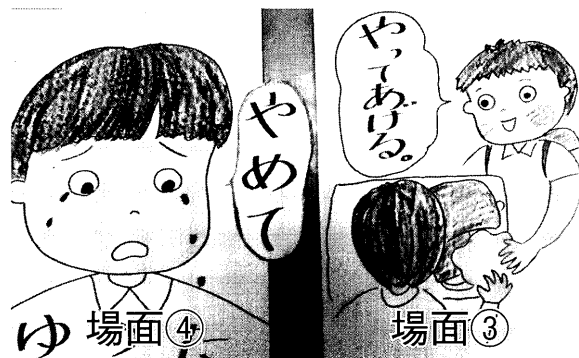
どうして、ぼくはランドセル
カバーが、かけられないんだろう。

将人さんのワークシート

(2) 手伝ってもらったのに泣いてしまった どうしたいのだろう

2時間目に次頁の絵と資料2を提示した。④場面を見せた時、「ええっ。」と驚く子どもたち。将人さんも一瞬目を見開いて、じっと考え込んだ。千里さんの「ゆうたさんがどうして泣いているのか不思議。」という発言に首を振った将人さん。そして、「ゆうたさんはランドセルカバーを一人でやりたいと思っているんじゃないかな。」と発言した。

資料2
 ゆうたさんが困って
 いると友だちが
 「やめてあげる。」
 と言いました。
 ゆうたさんは
 「やめて。」
 と言って泣いてしま
 いました。



将人さん以外の子どもも、ゆうたさんが泣いている理由を自分でやりたいからだと言ってきた。しかし、この発言に首をかしげる子どももいた。泣いているゆうたさんが、本当は何をしたいのかについて迷っている状況と判断して、「◎ゆうたさんは、どうしたいのだろう。」という追求問題を設定し、みんなで考えていくことにした。

将人さんは、ワークシートに「どうしてランドセルカバーがかけられないんだろう。」と書いて手を止めた。続きを書けずにいる将人さん。教師が、「どう書いたらよいか分からない人は仲間の話を聞いてから考えてみたらどうか。」と投げかけるとうなずいた。

そこで、互いの考えを話し合うことにした。仲間が「練習したいんだ。」「上手になりたいんだ。」「自分でどうにかするからいいよ。」と発言するのを聞いて将人さんは「みんなの意見の中で一番いいと思ったのは上手になりたいだ。早くって言われてもゆうたさんは早くしてあげられないから練習して上手になることが大事だと思う。」と発言した。

将人さんの後に、拓真さんが「ゆうたさんが自分の力でやるのが大事だよ。」と発言した。健吾さんも「ゆうたさんは100万回練習すればいい。」と発言した。

「ゆうたさんが練習をすればよい。」という建前的な考えが多く、まだ本音と向き合っていない状態であった。そこで、教師は「でも、やってもらったら楽じゃないの?」と全体に向かって問いかけた。すると、将人さんと美里さんが次のように答えた。



仲間の意見を聞いて発言する将人さん



ランドセルカバーが切れるといけないので、手伝ってもらわない方がいいよ。(将人さん)



カバーが切れるというより、人にやってもらって2・3年生になってからできなくなるからやってもらわない方がいい。(美里さん)

しばらくして、将人さんが「わかった。やっぱり手伝ってもら方がいいみたい。だって暑い日や寒い日にやってもらえば、ゆうたさんも喜ぶかもしれない。」と発言してきた。将人さんの発言に多くの子どもが「それはちがう。」とつぶやいた。

桃子さんが「ゆうたさんにはできることがあるんだよ。できることをできる時みたいにならば大丈夫なんだよ。」と発言した。教師が「どう思う。」と尋ねると「わかんない。」と答える将人さん。桃子さんのこの発言は、他の子どもたちへも広がっていかなかった。

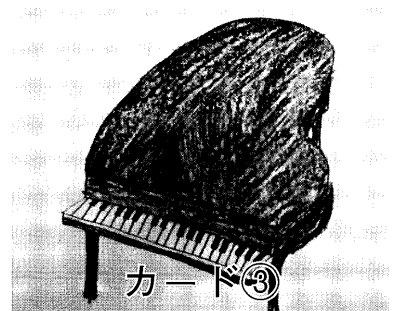
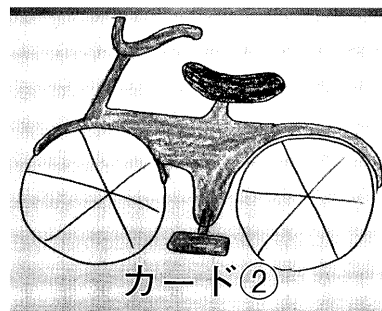
資料の問題場面の追求のみになり、解決策に迷う子どもたち。自分の経験に引きつけて考えることで自分の問題解決策がはっきりしてくると思え、新たに資料を提示することにした。



首をかしげ考え込む将人さん

(3) 自分は今までどうしてきたかな？

水泳・自転車・ピアノのカードを提示し、「じゃあ、みんなはこういう時はどうしているかな。」と教師が問いかけ、自分の場合はどうだったか考えてみることにした。



教師が「将人さんは、最初からプールに潜れたのかな？」と尋ねると、「最初からじゃない。」と答えた。「どうして、潜れるようになったのかな。先生は手伝った？」と聞くと将人さんは首を振り、「慣れてきたからだ。」と答えた。1年生の水泳授業の最初の頃はプールの水が怖かったが、だんだん慣れてきたことを思い出していった将人さん。

教師が「この3つのことから何が大事だと思ったの？」と尋ねると「練習が大事だ。」と返す子どもたち。将人さんはじっと板書を見つめた後、下のように発言した。

ぼくが、練習するなら、お家の中の友だちのいないところで一人で練習をしたい。(将人さん)

わたしは、友だちと一緒に練習するといいと思うよ。(南さん)



自分の解決策を話す将人さん

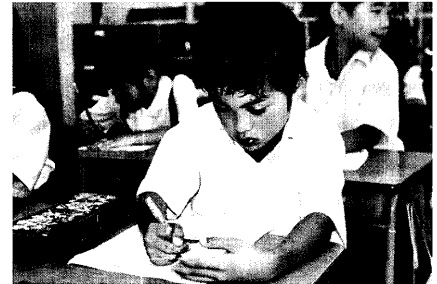
自分の経験に引きつけて考えたことで、「家の人と練習する。」や「友だちと練習する。」のように多くの子どもたちが「手伝ってもらう。」から「自分でやることも大事。」と価値観を更新し、自分なりの解決策をはっきりさせてきた。教師が「この前と考えが変わってきたかな。」と問うとうなずく子どもたち。そこで、もう一度自分の考えをワークシートに書くことにした。

(4) ぼくの考えは、一人で練習すること「問題解決策の再構成」

将人さんは「ゆうたさんへ」から始まる手紙を書き始めた。教師が将人さんに「この前と考えが変わったようだけれど。」と個別に尋ねると「一人でやりたいんだ。友だちがいない方がいいんだ。」と答える将人さん。「手伝ってもらうのは嫌なの？」と聞くと大きくうなずいた。

ゆうたさんへ
一人だと自分の心が一つになるよ。そうすると練習に集中できるよ。

将人さんのワークシート



自分の考えをまとめる将人さん

将人さんは、自分の経験と比較しながらゆうたさんが泣いた理由を「自分でやりたいからだ。」と気づいた。「手伝ってもらう方がよい。」から「ゆうたさんは自分でやりたいのだから、ぼくと同じように一人で練習したらどうだろう。」ということに「発見的理解」をし、問題解決策を再構成していった将人さん。この学習を通して「意識して自分のことは自分でしようとする」という価値観を形成しつつある姿である。

Ⅲ 成果と課題

成果 「発見的理解」 追求過程での自分の経験に引きつけて考えるためのカードの有効性

「発見的理解」の追求過程で、3枚のカードの提示をした。これにより将人さんをはじめ多くの子どもが自分の経験に引きつけて考えてきた。ピアノに強く反応を示す子どもや自転車に反応をする子どもなど様々だった。自分の経験を想起したことで、「自分がピアノを練習してできるようになったように、ゆうたさんも練習したらどうだろう。」のように、資料の世界だけの追求にならずに、ゆうたさんの問題解決策を自分に引きつけながら考えることができた。

課題 「共感的理解」の追求での動作化や役割演技の在り方

「共感的理解」での動作化はその場面の状況を把握するために有効であるが、何のためにそれをしていくのか子ども自身の目的意識がはっきりしていなかったため意欲を持続させていくことが難しかった。今後はどの場面で動作化や役割演技を入れるのかなど共感のさせ方を考えていく必要がある。

<主な参考文献>

- | | |
|-------------|--------------------------------------|
| 永田繁雄 服部敬一編著 | 2004 「研究授業 小学校道徳 低学年」 明治図書 |
| 永田繁雄 編著 | 2006 「『じぶん』『いのち』『なかま』を見つめる道徳授業」 教育出版 |
| 尾高正浩 | 2006 「『価値の明確化』の授業実践」 明治図書 |